①

報道関係者各位　　Press Release　　2022 年 1 月 5 日

IAMAS 2022
情報科学芸術大学院大学 第20期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会

ご挨拶

　このたび、IAMAS(イアマス) は「IAMAS 2022」と題し、第 20 期生による修了研究発表会および 2021 年度のプロジェクト研究発表会を開催します。IAMAS には、芸術、情報科学、デザインに留まらない様々な専門領域を持つ人が集まっています。このような環境の中で、各々の専門性を発揮しつつ、時には他の領域を横断しながら、自身の些細な違和感や関心に焦点を当てた制作や研究を行っています。その集大成として制作した修士研究作品の数々をここに発表します。

また、修士研究作品発表と並んで、プロジェクト研究発表会を同時に開催します。プロジェクト研究では、教員と学生(主に修士 1 年生)による、様々な領域を包摂した研究成果の数々を展示します。「IAMAS 2022」は学生の修了研究発表に併せて、本学の研究活動を同時にご覧頂ける、IAMAS 全体の展覧会でもあります。

本学の多種多様な分野の研究成果や活動をより多くの方に知っていただきたく、本展の告知、ならびにご来場・ご取材のご検討を何卒お願い申し上げます。

開催概要

［日　　時］ **2022年2月20日(日) – 2月23日(水・祝)**
10:00–18:00(初日のみ13:00–18:00) [入場無料]

［会　　場］ ソフトピアジャパンセンタービル　岐阜県大垣市加賀野4丁目1番7号

［公式情報］ https://www.iamas.ac.jp/exhibit22

［主　　催］ 情報科学芸術大学院大学［IAMAS］

［備　　考］ 上記内容は、新型コロナウイルス感染症に関連する今後の状況や、政府機関・自治体の指針に応じて変更される場合があります。展覧会開催の有無や、実施される予定の感染症対策事項についての最新の情報は、下記ページに記載されますのでご確認ください。
https://www.iamas.ac.jp/exhibit22/covid_19

IAMASとは

IAMAS（情報科学芸術大学院大学）は、岐阜県の情報産業拠点ソフトピアジャパンプロジェクトの一環として、1996 年に岐阜県立国際情報科学芸術アカデミーとして開学し、2001 年に修士課程のみの大学院大学として設立された学校です。充実した講師陣による少数定員の大学院大学として海外にも広く知られ、英文名称 Institute of Advanced Media Arts and Sciences から IAMAS（イアマス）と呼ばれています。芸術と科学の融合を建学の理念に掲げてスタートした IAMAS は、最新の科学技術や文化を吸収しながら、新しいものづくりやデザイン、先端的な芸術表現などを社会に還元する高度な表現者の育成を目指しています。IAMAS の教育の先端性は、工学、デザイン、芸術、人文学など、様々な異なる分野の学生たちによるユニークな研究を生み出します。専門性を習得し、様々な知を統合し、それを新たな領域まで拡張することによって、修了後は表現者として社会における新しい領域で活動し、それを展開する能力を身につけます。

IAMAS 2022 コンセプト

新型コロナウイルス感染症の世界的流行から 2 年が経とうとしています。その猛威は未だ予断を許さない状況ではありますが、流行当初の非日常はだんだんと私たちの日常となりつつあります。世界のどこにいても向き合わざるを得ない事態に、誰もが影響を受けました。それはこの 2 年間を IAMAS という環境で過ごした私たちも例外ではありません。

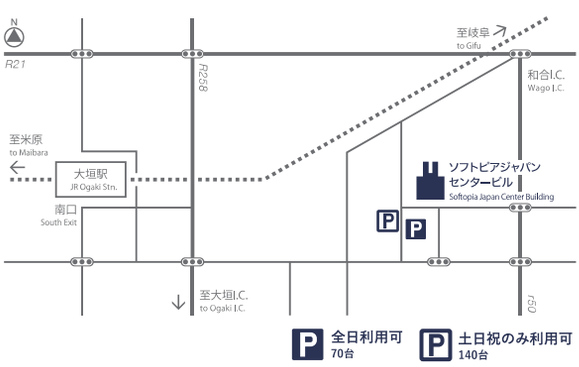
IAMAS 2022 では IAMAS 第 20 期生の意思として「あがりの儀式」をキーワードとしています。私たちにとって本展覧会とはコロナ禍と呼ばれる時代に様々な思いを抱えながら IAMAS という環境で悩み、議論し、作り上げた修士作品を社会に問う場であり、区切りをつけ、「あがる」契機であると考えています。私たちが「あがる」ためには、この時を共にした IAMAS に関わるすべての人の協力が必要であり、本展覧会はその全員の参加を以ってあがりを祝す儀式としてあります。

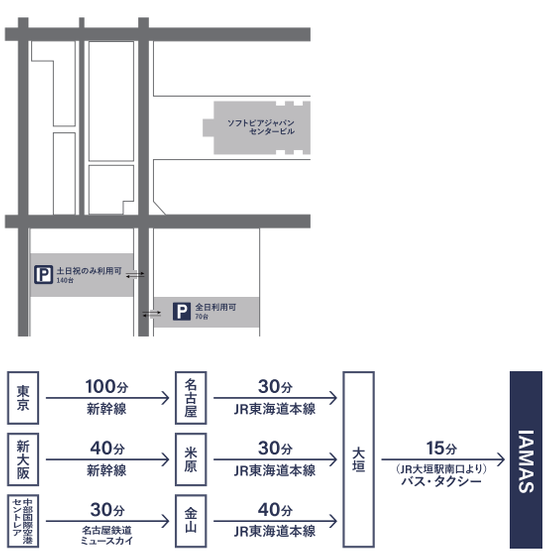
世界では新型コロナウイルス感染症流行以前の日常を取り戻そうという試みが始まっていますが、2022 年現在から振り返ってみれば、新型コロナウイルスの蔓延とともに新しい時代が始まったと考えられるでしょう。そのような時代に IAMAS という環境で様々な思いを抱えながら作品制作に打ち込めたことは幸せなことだったかもしれません。

私たちは本展覧会を「あがりの儀式」として IAMAS という環境に一区切りをつけ、ここでの経験を糧にそれぞれの新天地へと向かいます。ご来場のみなさまにおかれましては、ぜひ作品と対峙し、作家と活発な議論をすることを以って私たちのあがりを祝していただければ幸甚です。

IAMAS 2022 実行委員長　西田騎夕

アクセス





広報に関するお問合せ
取材にお越しいただく際は、件名に「IAMAS 2022 取材申込」とご記入の上、事前に下記メールアドレスまでご連絡をお願いします。
IAMAS事務局　MAIL: event@ml.iamas.ac.jp　TEL: 0584-75-6600　FAX: 0584-75-6637

修士作品出展情報

作品タイトル

traffic right

ある境界的命題に対する個人のよい / わるいという選択に善 / 悪の意味が付与されるプロセスを赤 / 青で示し、個人を形成する自然因果性がどのような変化をしているかの一つの思考モデルをパフォーマンスで表現した。

プロフィール

石田 駿太

岐阜県大垣市出身。大垣北高校卒業。
エゴのぶつかり合い、「よい / わるい」と「善 / 悪」の関係について研究している。

作品タイトル

Focus Change

耳を澄まして、着目したい音に焦点が当たる。それを実現する技術としてノイズキャンセリング・フィルターを捉え直す。本作では、都市の音を「ノイズ」と一括りにして排除するのではなく、都市の音にアクティブな接点を持つことができる、「補聴器」としてノイズキャンセリング・フィルターを捉える。現在の利用法とは異なる使い方を提示することで、特定の用途に限定されている技術を解放する。

プロフィール

天野 真

1997 年福岡県生まれ。
慶應義塾大学環境情報学部卒業。
クマ財団 4 - 5 期生。
「社会に実装された AI に対する抵抗」をテーマに、作品制作を行う。

※この他にも多様な出展作品がございます。
ウェブサイトにて出展作品の詳細を掲載しております。

プロジェクト出展情報

出展タイトル

「メタ・モ（ニュ）メント 2021」アーカイブ

2021 年 3 月 31 日に開催し、10 組 14 名のアーティストと約 550 名の観客が参加した、同時多発的で分散型のオンラインイベント「メタ・モ（ニュ）メント 2021」のアーカイブ。

プロフィール

Archival Archetyping

Archival Archetyping とは、作者が作品を制作する段階から、創造的行為を新たな創造のために機械学習による学習モデルとして記録、保存することにより、アーカイブ（創造のための編纂手法）とアーキタイプ（原型）を同時に実現しようという考え方である。機械との協働により人の創造的行為をアーカイブすることに挑戦しつつ、単なる道具、奴隷、代替のいずれでもない、「鏡」としての人工知能を探求する。

出展タイトル

体験拡張表現プロジェクト

修士１年の研究成果として、VR や MR 技術を用いた作品、AR や映像を用いたパフォーマンス作品、生体情報をセンシングして可視化の体験・展示を行う。さらに NxPC.Lab の活動アーカイブ、共同研究の MR 作品も展示する。

プロフィール

体験拡張表現プロジェクト

本プロジェクトでは、仮想現実、拡張現実、複合現実といった XR、リアルタイムにプログラム可能な音楽・パフォーマンス・映像表現など技術を駆使することで我々の体験が拡張される環境を創出するための研究を行う。
特にリアルタイム時空間でのインタラクションや表現、インターネットなどの情報空間、センサー環境や深層学習による状況認識や理解など未来を見据えた体験を実現するための実践的な適用を考慮し研究を展開する。

※この他にも多様な出展作品がございます。
ウェブサイトにて出展作品の詳細を掲載しております。